

1 階の 5 段の階段を歩きやすくする知恵

24. 6. 18

(1) 趣旨

県ドリームハイツ住民の高齢化等（障害、介護、子育て年代を含め）に伴って一階の階段が近隣の共同住宅や買い物先のスーパーに比べて急勾配となっており、生活上の大きな負担になっている。

そうしたことから、平成23年7月から調査検討を重ねた結果、ようやくすべての住民にとって歩きやすい階段を提案することができました。

なお、残念ですが、障害者の車いすの利用のためのバリアフリー（スロープ＝傾斜路）の建設は、この階段の高さ、幅、長さ、天井高、出っ張りの柱の位置、破壊による構造上の問題、建築基準法上の傾斜角度の基準、建設費等々があり不可能です。

しかしながら、介助での昇降は現在の階段に比べ各段に楽になります。

(2) 提案とは、

① 規格を統一する

県ドリームハイツすべての78階段を計測（別表）した結果、寸法（天井高、踏み面、蹴上げなど）がすべて異なっていることから、段数を五段、踏み面を30cm、蹴上げを15cmにそれぞれ固定した上で、残りの下の段差11～21cmを柱までスロープにする。

② 段鼻を面取りする

現在の段鼻は貼付式のノンスリップを設けているが、それがかえってつまずきやすくしたり車輪を上げづらくしている原因になっていることから、段鼻を面取り（角を削る）する。

③ 蹴出しする

現在の蹴込みは、ショッピングカーなどの車輪を上げ難くしているのので、逆に蹴出し（蹴込みの逆の出っ張り）して上げやすくする。

④ 段鼻と蹴出しを一体化したブロックにする

階段の規格統一化、工事の短期化、経費の軽減化を図るため、ブロックをコンクリート製造会社に発注して、現場は主に組み立て工事にする。

⑤ 踏み面のスロープ化

下のブロックと上のブロックの間の踏み面を緩やかなスロープにすれば、蹴上高がさらに低くなり、歩きやすくなるし、掃除も楽になる。

⑥ その他

段鼻に滑り止めのテープ、蹴出しに「天井注意」のステッカー、天井に衝突防止マット、両側に手すりなど、安全面の措置が必要です。

(3) 管理組合が展示した木製の仮設階段との違い

- ① 木製階段が7段（蹴上11.5cmから13.5cm、踏み面28.5cm～32.5cm）に対して提案は5段（蹴上15cm、踏み面25cm（蹴出しを含めると30cm））であること
- ② 木製段は段鼻の形状が定かでないのに対して、提案は面取りがあることから、つまずきにくくなっていること
- ③ 木製階段は蹴込みがなく垂直であるのに対して、提案は独創的な蹴出しがあることから、車輪の上げ下ろしが楽になること
- ④ 木製階段は傾斜角度が2度ほど緩くなる分、天井が低く（187cm）なるに対して、提案は2度ほどきつくなるが、その分天井が高くなる（190cm以上）こと
- ⑤ 木製階段は階段下は平坦であるが、提案は緩やかなスロープとなっていること、なお、スロープにしない場合は6段にすることも可能であること



（俣野公園からみた県ドリームハイツ）